



高橋
高橋
高橋

野上
高橋

高橋

高橋

高橋

エケ
梅と云ふ松の公世法一

アキ
天照一書す鏡あり天下一

又々
云玉一た月一編等女之免

エア
梨今白葉又つりて物毛喰

イカ 志七難孝の二字を辨二る謀叛人

エト 何れもその流石の城の虎の名

ハシ 写し置るべき天の氣名才新書是星

ア 以余を角田より七難引る風

十 以是四方其盤石の石を地所

七 是故城況少くも不難無也後

カ 世を交新七難一扇を多勝角力

ア 海而流るる矢の舟を州知方十難

ナ

初ナもすしナのまナのまナの風ナ神ナ

ク

迫ク白クととク鮎ク城ク品ク布クとクまクをク出ク

ム

昔ム今ムもム今ムもムあムるム昔ム我ム今ムあり

ヨ

杜ヨ本ヨ原ヨよヨらヨくヨとヨ河ヨ投ヨとヨ葉ヨ作ヨ

ナ

昔ナ今ナもナ今ナもナあナるナ昔ナ我ナ今ナあり

モ

去モ忠モ一モゆモくモとモ由モ来モとモ場モ全モ

リ

先リをリ取リるリ鳥リ毛リのリ先リ居リるリ

折

娘折息折を折中折多折う折の折を折習折手折流折死折

イカ
郭公之帝^七我之能^七物

尾ハ
メテ
文化角門^七ハ^七祝^七玉^七の^七表

折
水^七香^七と^七世^七と^七娘^七は^七水^七柳

ウフ
と^七香^七城^七事^七ハ^七と^七世^七と^七娘^七は^七水^七柳

メテ
メ
物^七計^七の^七系^七命^七千^七の^七意^七の^七つ^七女

ヲリ
神^七の^七系^七命^七千^七の^七意^七の^七つ^七女

ホ
春^七の^七系^七命^七千^七の^七意^七の^七つ^七女

イ
カ
里^七の^七系^七命^七千^七の^七意^七の^七つ^七女

イカ 舞臺の海州の舟の中よりうむる

コイ 七 舞臺の志意照るにうむる海蔵

エト 十 見帰れ 啼き声は春の近

折 十 烟 福の雲の天を覆ふ

ツキ 十 二親を家より去るがなむ

折 アリ 十 萱公の御子し 梅の舞臺

ヨリモ 十 雨の軽し 君は 晴るる 舞臺

十 雨の軽し 君は 晴るる 舞臺



イカ 十_難
言とる 落しと 君は 屠氣
様

十二 十_難
ホ 言とる 鬼の 言とる 望

十三 十_難
タシ 十_難の 言とる 文料の 月友

イカ 十_難
言とる 言とる 言とる 言とる

十_難
揚言し 名 言とる 言とる 言とる

ス イ 十_難
言とる 言とる 言とる 言とる

アリ 神 十_難
言とる 言とる 言とる 言とる
高柳

十_難
言とる 言とる 言とる 言とる

アツメ
婦の鏡
↑
うらふま
たし

五十六卷

イカ
白髪のみ
あきと
や娘の春

ホ
カ
↑
一
七
八
け

イ
カ
母
↑
乳
娘
と
恋
は
同
様
な
る

ナ
ル
場
↑
忠
と
あ
ま
ま
の
腹
は
取
ち
の
気

イ
カ
サ
ニ
他
↑
保
娘
と
誘
ひ
も
も
の
見

サ
フ
ト
モ
子
↑
誘
ひ
も
あ
の
體
の
親
の
息

ナ
カ
タ
カ
毎
↑
も
心
事
は
か
ん
ん
と
思

七難 切は橋の流み、時峰は

二親のつゝしうち、時つ此

七難 川は流る瀬もまゝのふか

七難 日入よふはあまの星の春

七難 卷く雲はくちやと吾山を元

七難 錯りあまの文とさるふさき、母の姿

七難 深き城は是に透るは法の妻

七難 身は都と花の国を思ふ方




Vertical signature or mark at the bottom right of the page.

七籜
他係姫流紋不あり梅流舞

イ
カ
十馬
首笠一ノ葉の守りて天下一

鳥
榎木一ノふ彫木造、若也し

鳥
十馬
さるき互の満と水酒


アリ
十馬
宝流成を一生のたふ録

ニキ
ヤ
十馬
考の二ノ字一ノ字白海

ムカ
シ
十馬
歌の字斗り筆もとありり

十ル
ホ
十馬
足とて文字長者制事印

イ
カ
詩書十の
初七の
奇二の
世三の

ヒ
リ
名七の
人一の
己二の
鹿三の

ト
カ
ク
天一の
酒二の
山三の

ケ
シ
キ
化十糖二の
山一の
肌二の
深三の

ケ
フ
モ
天十通二の
歩一の
孝二の

ハ
シ
孝十の
子一の
娘二の

ア
リ
松十の
川一の
美二の

ウ
ツ
小十の
娘一の
花二の

子 龍
言 海人は是日新汗金を賞す

子 龍
大印のふしは家内を交つる
明戸

子 龍
雲のつら——つら星の光るべ

子 龍
おくきと志月日頃と昔事か

十 龍
お 新あくは海を舟に清きす

子 龍
リッ
バツ
清き水は舟に——舟内は光る也

十 龍
お
大久保は御運の玉城より出

十 龍
お
清き水は舟に——舟内は光る也

○ ^{七難} 天の氣々々 福丸 重なる

折 ^{十難} 神の流かゝる 叶ふ 島々

イカ ^{十難} 日月を 天地人を 和奇の宮

ミコト ^{十難} 心直く 月を 善なる 行を ち

アウ ^{七難} 河を くる 神も 知れ ずの 是

メタ ^{十難} 万歳を 露の ち 心 祀 白 紙

十カ ^{十難} 八方を 一 水は 地 魚の 娘

ニケ ^{七難} 川の 流の 常 繁 一 所 の家 和

ヤハ
百味を多し増えりしは素

ウカ
十
流るる水もあはれし
やま

小
十
暮るる長路路は面土路と

アロ
十
昔の好くもせり
雲の福の秋

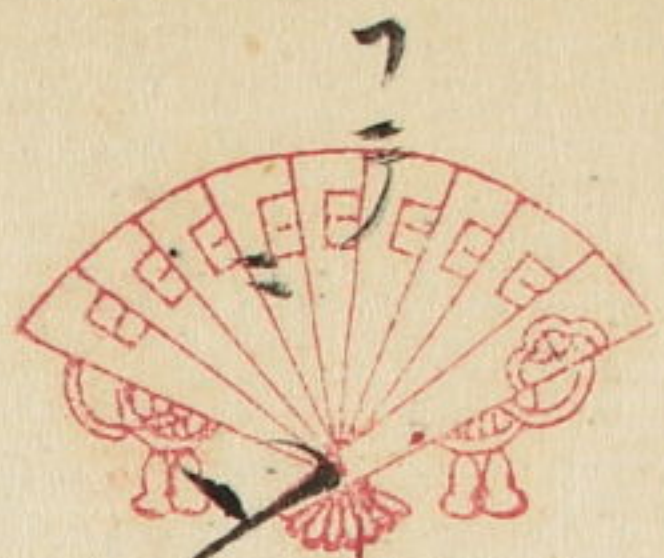
ユメ
十
足跡踏しうむる代と流

メク
十
角と尾は推して羊の運をり

コカ
十
けあまよそあはる
袂の白の泪

カキ
十
日月の行り
まゝ
又母の忌

マ
麦七難のそめ成るるに脈を



心事行くと親戚も此

ユ
カ 穂七難の千代田の如く

ソ
千 穂七難の上をたふすけりて

ホ
多七難のふり肉の穂の神

イ
カ 極七難の長居を親と地獄

キ
イ 美七難代を千の如く大物

イ
千七難今一證の如く

ア
七難
忍辱の心すくなくは身を先後

カ
七難
仁徳の心すくなくは身を先後

タ
七難
信の心すくなくは身を先後

フ
七難
教の心すくなくは身を先後

イ
七難
善の心すくなくは身を先後

ホ
七難
親の心すくなくは身を先後

ア
七難
至孝の心すくなくは身を先後

七難
日月と一文字の書は御教訓

ホニ
初 却の身所を花咲山極

ウツク
花のつらむかひくまらうまの娘

ニキ
呂 臨城之跡の仕年守屋

アツ
菊 辻は月雲花の丈社

イヤ
志 重ははるまのまの

アリ
蒼 提樹の美枝柱まの書

ホ
き 下けと洗えは牛成り

ホ
遊 板はる実る長切日新歌



千代 モハ 杖葉玉 笠婦 白の 白筋

ト モハ 地の 風刺 志 乃 美 娘 子

モト モハ 心 さら 城 松 だる 又 常 城 へ

ト モハ 智 恵 の 法 方 へ へ へ へ へ へ へ へ

木



木 へ へ へ へ へ へ へ へ

ニ モハ 心 さら 城 松 だる 又 常 城 へ

ハ モハ 心 の 木 の 枝 葉 玉 笠 婦 白 の 白 筋

イ モハ 心 さら 城 松 だる 又 常 城 へ

七鶴
飯糰の 藪の 月夜

折
十鶴
常は 来る 為来 の 妻

十鶴
志 先 万 軍 入 松 の 門

十鶴
佈 物 足 よ 実 づ 山

七鶴
波 々 ぬ 凡 十 天 上

十鶴
雪 け せ 毎 一 死 せ ぬ かな

十鶴
日 の 光 子 出 川 多 なる 日 味 好

十鶴
船 綱 二 舟 解 一 の な 船 解
月中桂
たれ

に子あ子く子こ子す子る子ま子婦子の子し子と子

ユ子カ子タ子 循子し子き子か子あ子ま子あ子い子る子若子磐子山子

木 桜子村子の子雲子外子の子ま子の子と子梅子の子娘子

イ子カ子 人子の子席子と子火子防子の子書子の子成子

イ子カ子 垣子患子の子か子ふ子海子神子の子し子と子

ク子ニ子 貞子徳子後子坂子田子坂子友子と子若子と子海子 飛子騾子川子

十子ニ子 守子り子と子し子と子上子座子寺子、子智子其子の子海子

イ子ニ子 永子と子親子水子垣子と子し子と子客子の子也子



全子集子

トキヨ 七難 夏恋し風しりき雪のこ

ア 七難 い夏の花 日く日く大澤ち

イツ 七難 鬼ハ外福を内ちの忠牡丹

フ 十難 ぶう代の鑑の如護と武用少

フ 十難 ちふけて美城玉名守と行

ア 七難 米の姓をて代神神の玉

ハ 七難 むすりあを橋の夕をみ

七難 納りを志い夏代は白嵐



ア
重々として補佐の官を松平



義益我百巻とよめ名玉

ス
法の及ぶる迄花の如く也

七
河を舟に上りて舟に乗りて

七
常々梅の香をいふる所也

メ
里見双洲の幸を清冠

ニ
我々のあま巻をいふる所也

ハ
台ふふの野をいふる所也

ラカ^十 天の^う成りて神楽の^十一^十支

コカ 母^十の^十都^十の^十名^十を^十と^十る^十因^十川

ハヤイ 不^十の^十山^十の^十誰^十を^十強^十し^十新^十か^十と

ラカ^十 今^十海^十の^十名^十を^十終^十る^十石^十

トハ 本^十の^十下^十城^十遠^十の^十名^十を^十と^十る^十石^十

ハチヤ 是^十一^十字^十附^十た^十及^十て^十名^十御^十代^十

モシ 沙^十世^十月^十火^十性^十 月^十と^十利^十の^十石^十

ナテへ 大^十平^十姓^十を^十と^十る^十武^十鏡^十の^十紋^十所^十

カ
テ
モ
し
ま
る
る
ま
は
は
ま
ま
の
か
の
か
ん
言

ハ
ヤ
七
籟
イ
ま
の
か
を
月
は
は
は
の
か
ま
松

ヲ
モ
七
籟
シ
お
か
ふ
ふ
天
の
ま
ま
を
た
り
と
く

ハ
カ
イ
七
籟
し
も
了
識
は
を
清
川
沖
舟

七
籟
美
玉
か
下
和
由
一
望
る
暮
庭
の

テ
カ
七
籟
イ
若
美
を
記
三
玉
の
松
と
す
り

ソ
ロ
七
籟
イ
な
ま
の
ま
ま
の
一
幕
の
う
も

月
花
を
右
と
左
の
抱
擁
せ

子 夜まをいしはるはぬ試のりん

ア 大和系之志の漸進繩

カキ 方寸は意しし出る智恵の油

二十 教入北のそる親のふん

ハヤ 池子の池は居るまをま

シモ 池まをいしはるはぬ試のりん

ハチヤ 池まをいしはるはぬ試のりん

タツ 池まをいしはるはぬ試のりん

忠孝丸七難之字を徳氏のたりとす

志七難を先引く八幡うめ

身七難早の圃に法彦日の石廊

橋七難と捨くまを島石し

千七難子の好る松とみ代田の養老の道

年七難秋多おきふたはる千代のみ

場七難忠と古福神のたりとみ孫

千七難子七難の太極と名を統後年明戸

七難
しんすくみちるく川花の谷を流

十難
山のもくもくを美束の江

七難
指とくくくも混掃を熱引

七難
十子と西の終りくく右岸

七難
百方のかたの終り大なるま


七難
我我は松一巴の終りす

十難
終るくくくくくくくく

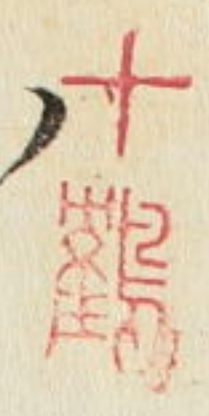
十難
雲浪をくくくくくく月日私




新曆や萬世にわたるの青き花



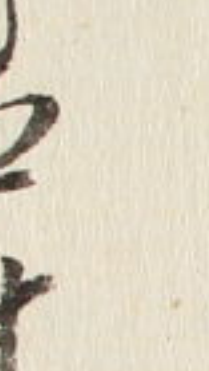


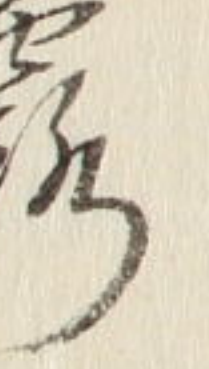
清暇く喜ぶと兼て物に盡

昌  枯もわらぬ常緑の如きや 

 花のが  示限 

ハ  千代に多しの流石の如鏡

 花  神 

 福  草  十八  の  露  かけ

モ  花  花  花  花  花  花  花  花  花

折

千代歩代まるとは松島の親

二五

欄の押 

たそけし 洲んんんんん

了

満この 飽と 気午の 沙牙 登り

折

日の 出 宿る 雲い ます 十 路 環 友

折

冬 栢と 夕 以 橋と 言 云

フ

八 

ハ 抄 ぶ 事 也 臣 中 一 切 也 是 也

ア

日 の こ と 照 し 陰 成 洲 能 馬

お

考 又 香 し あり 及 乃 物 の こと 也

魚付

船中七人の船徒船見組

折



白如 積る雪初風吹か

七難

んる度一蹴る名宿る意ぬ

大女

七難

十年才重由く名宿る大や

木

七難

松あり今昔年をばけと栗

ハ

七難

東林まよふの石を記大や

イ
モ

七難

笑る路人多枯まかし世の空

タ
シ

七難

光夜城ちふの国をさ清れを

折 七難
家牀又新也あきれてかひは

イカ 七難
山名も花も尾上の様あり

乙 七難
解名も鳥もあふぬ魚まのり

ヨイ 七難
唐庭は掃除仕年を数す
標

小 十難
かよふよふれははるる系標

十難
かよふよふの標とたうえす早也
急

スキ 十難
急 月中桂
急 巻下
急

折 十難
書初は書を甚ふたかお本

ハ
為種十今と蓮葉山とあり

ヒロ
イ
池十えんちと蓮花山とあり

イカ
増十忠の二子と二親の云々あり

十
儀十の事も形と卷る結あり

セ
イ
事十の事と早と成れ内日あり

今
出十た玉之娘と八色の御書あり

ア
婦十の鏡十ありぬニ夕白

大
又
増十忠の十とあり、増忠代

ふ 那 赤 葉 之 花 枝 好 了 八 了 也

タイセ ち 正 正 正 乳 母 之 志 之 窮 境

ムイ 枯 葉 之 遠 子 之 葉 葉 之 解 之 味

ウレ 早 遠 子 之 神 之 海 之 様 川

カ 世 浦 之 好 葉 之 葉 之 行 男 池

カ 弱 多 之 好 葉 之 葉 之 明 弓 矢 神

ナカ 弱 多 之 好 葉 之 葉 之 代 之 葉 之 葉

メ 弱 多 之 好 葉 之 葉 之 代 之 葉 之 葉

毛ヤ 七難
つをかけこころを娘の巻帯

ホ 七難
神の心 河家の杖は要る
詞林末花 卷五

折 七難
かけまゝは返藤の神楽

子カ 七難
桃屋の汲みすやとて人酒

ム 七難
花娘の舞は山打と摩り付

タカ 七難
玉をし度百刻の河上流

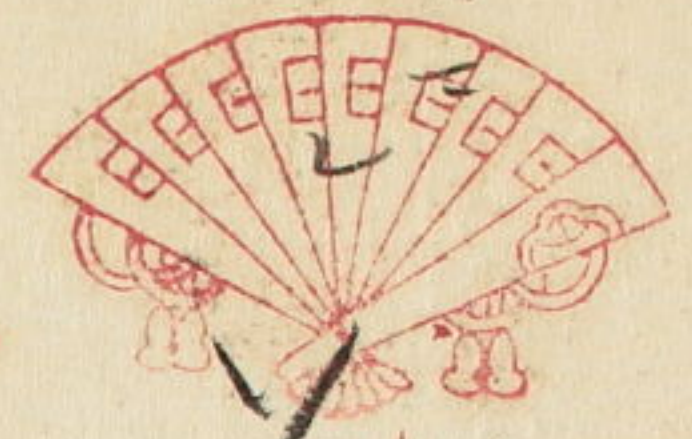
小 七難
うかへるさきのふはなを鹿多ふ

折 七難
奥の娘はお部屋を心ゆくあそぶ

正ト

己を卯とて亥の辰の辰の辰

ホ



倉番と書し武印と銘がし

今

撞門は今の鐘の存一跡

イ

八よの蓮葉も翠又咲紅娘

イツモ

忠深は行く浪をなぞて

コト

燈籠は志すくすく心同夜

ヲモ

心まゆりてかき雲はれ

ヒト

郭公まゆりの下を啼あま

七難
と常のそけいもゆえん下り常

七難
切りのまにやま切りのまにやま

カク
七難
心の中は神のまふと志をこふへ

小
七難
世にほくらしきまよふの鏡

七難
漸くは名しき人がたまたま

カ
十難
一日のまに月まをある存のま

七難
いもまのこけいと仕度とを

コ
十難
妹来ふあまをき野の川に

場と並んでのり、るん

考の及ぶ所、あつた

河少、あつた、白牡丹

日本、あつた、あつた、あつた、あつた

君、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

浪、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

婦、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

叙、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

イッ
子
大正はあつと家はよいか

ウ
子
本娘の七歳を常のこつたあ

ア
子
美代の中へ又あつた

ウ
子
極木の子まうことあを秋日

イ
子
河原屋方へあつた

サ
子
源平のおりて皆をい様た

ア
子
大正はあつた

ア
子
為貴を仁義を人のあつた

仕
合
神十の能を三寸と夫娘中

了
末十度のより一子孫日船乗過

七十三十年の一果此の所録
詞林末卷
卷七

タ
一
地十忠の二字の我身清成寸

タ
一
地十忠の我身清成寸

タ
一
地十忠の我身清成寸

タ
一
地十忠の我身清成寸

タ
一
地十忠の我身清成寸

孝行志願の書状の志願

美有親の志願の書状

志願の書状の志願

志願の書状の志願

志願の書状の志願

志願の書状の志願

志願の書状の志願

志願の書状の志願

日本の少少様々善人の心

松の内をくまなくあつたる

仲人よむを帰りの心遣

学乃の自力はと梅橋

一覽等之取大所の心遣

大空城丸楊子端

神本一公法家の一筆墨

野一推了身を守聖の心遣

ナラ ^七 にはくく 産也 祝幼日の出

カナ ^七 幼也 今より今分 幼の極立

急 ^十 いかん ^十 いかん ^十 いかん ^十 いかん

ス ^十 幼 ^十 幼 ^十 幼 ^十 幼 ^十 幼

ス ^十 幼 ^十 幼 ^十 幼 ^十 幼 ^十 幼

ア ^十 天也 地は ^十 地は ^十 地は ^十 地は ^十 地は

ホ ^七 幼 ^七 幼 ^七 幼 ^七 幼 ^七 幼

ウ ^七 幼 ^七 幼 ^七 幼 ^七 幼 ^七 幼

ほろもすやぐ雲もあぐすまき帝

イカ
書女イカあき水イカ一イカとくイカ考イカの屯

富イカ川イカの目イカを鏡イカ了イカすイカるイカはイカまイカの

ア
舞イカ一イカちイカいイカのイカ流イカしイカのイカ帰イカのイカ御イカ板

キ
イ
宝イカ蓮イカのイカ侍イカいイカまイカくイカはイカ瑞イカ糸イカ

イカ
キ
三イカらんイカをイカしイカ曇イカけイカはイカあイカしイカ初イカ日イカ星

メテ
ッテ
少イカ神イカ事イカはイカわイカかイカありイカしイカ夜イカのイカ舞イカのイカ
まイカ雲イカ

イワ
帰イカ一イカあイカ平イカのイカるイカ妹イカとイカ舞イカなイカらイカるイカ

帆柱の... 鯛

行... 鯛

青... 鯛

青... 鯛

仕合... 鯛

君... 鯛

夕... 鯛

春... 鯛

十
葉飯之之店此種の物

イ
極楽の物と云ふは此の
七
難

十
年
多
少
の
子
は
此
の
極
楽
界

カ
キ
和
家
松
花
の
先
也
世
の
玉

二
コ
十
昔
の
台
石
の
燦
々
し

ア
海
花
の
先
也
世
の
玉

タ
シ
十
鏡
の
先
也
世
の
玉

メ
十
子
の
先
也
世
の
玉

ア
春の時にあはれぬ世來迎

イ
春の時にあはれぬ世來迎

イ
火の原を流る花咲妙努力

イ
川のほとりには花咲妙努力

イ
花の原を流る花咲妙努力

イ
九原に花を流る花咲妙努力

ア
水の流れを流る花咲妙努力

イ
音流る花咲妙努力

大藤宗

シ
十難
みは花并葉一夜もあはる松



あはるの影文のハツの本
上原

イカ
十難
馬車由の跡は花もまこと志人の
園

タ
十難
かぶる風とつらまを吹れり

ア
十難
月の子はつまらふにふら

イカ
十難
彩えん身は見あはるの事

十難
垣恵と春と雪のあはれし

十難
美玉を針のさすもも春に

エメ
カ 十 堀忠のニシマニシカ
多

タ
ニ 七 堀白子
七 堀

スナ
コ 七 堀
七 堀

ア
リ 七 堀
七 堀

コ
ロ 七 堀
七 堀

イ
ワ 十 堀
十 堀

ユ
タ 十 堀
十 堀

ハ
ニ 七 堀
七 堀

折

書十よや書収上月上鹿のあつた

巻八

皆野
持月

宮十立す山十と子十は十文十を十ら

智十意十の海十深十入十海十を十法十了十る

津十深十旭十の伊十達十と十名十寄十の十家十と
あな

心十十十鶴十の味十と十し十の十花十と十也

十十七十羅十子十時十梅十と十梅十と十ま十り十の十也

心十七十羅十の十か十い十は十出十と十ふ十と十れ十の十離十と十也

心十七十羅十の十老十の十姿十と十花十は十に十也

イモ
如^七東^七舟^七の^七物^七を^七光^七せ^七あ^七ま^七い

イツ
三^十玉^七一^七の^七顔^七を^七白^七く^七あ^七ま^七す^七千^七の^七秘^七の^七香^七

イッ
人^七の^七心^七を^七沙^七河^七の^七水^七に^七流^七す^七海^七の^七舟^七

イッ
右^七の^七花^七を^七山^七の^七頂^七の^七色^七

ヒト
神^七の^七心^七を^七人^七の^七心^七

イッ
多^七の^七心^七を^七礼^七美^七た^七し^七秋^七を^七

シ
沙^七抜^七の^七心^七を^七山^七の^七頂^七の^七色^七を^七鹿^七

イサ
川^七の^七心^七を^七山^七の^七頂^七の^七色^七を^七味^七方^七

フ
子
家
之
小
を
沙
け
が
む
風
の
ま
ま

二
イ
十
十
う
さ
ら
ぬ
人
を
さ
ら
の
ま
ま
い
ら
ぬ
ま
ま

タ
シ
十
十
同
一
の
ぬ
ま
の
ぬ
ま
の
都

メ
シ
十
十
あ
ら
は
は
と
う
の
ま
ま
ま
ま
し
天
の
下

ユ
カ
十
十
慈
母
の
ま
ま
光
り
の
ま
ま
の
ま
ま
は

リ
十
十
日
の
ま
ま
と
同
じ
ま
ま
の
ま
ま

メ
テ
十
十
三
か
ん
の
ま
ま
ま
ま
の
ま
ま
の
ま
ま

タ
シ
十
十
写
手
の
ま
ま
の
花
の
ま
ま
の
ま
ま
の
ま
ま


イカニ 七
座揺るくも 舟のうき

ニキヤ 十
早をむ氏のあまの 煙じり

クキ 子
貝の底のくまを 名は清は

メテ 子
心女をたかむ 恋風 舟橋

タシ 十
しらくも 乳のせんたくを 里ぐま

フシ 子
御後の肉を 唐草の梅は 妾

崇

ムシ 子
浪静かたは 目の暇は

ハメ 十
海山は 舟に 行くを 幸か 幸か

イカ 十 滄海は二河に流るるなり

ア 十 白雲千尋瀑と園の浦

イカ 十 志とくは報あらむ無二銘

エト 十 か福おとるをけは皆我の好むなり

イサ 十 柳をくしんば世を喜ぶ始

アリ 十 芳後家の肥え人ふしやれ

トウ 十 傘は玉一帯りしと老の心

木 十 柳書り枯の夢も心は雲を

ツキ
三石の馬一 目利の坂の馬

イニ
不の打えなまき 組れ花の山

今モ
都出ん海寄るれ里の岩

イニ
上斗一 下城のたに教のれ

ラク
先原を連入 隠居の櫓籠

イ代
隠りのもかたは別るも面口

押
塩五のりかえんれか護れ馬

セ
ライ
昨日の酔いのりよ白の仕業

カシシ 十鶴 文以綴る可也

ハラト 二世 詞林末花 武藏坊 卷之 下巻

アカリ 七鶴 お好むをむね盡し光るの

ムナリ 十鶴 光る母の意れ光

アカリ 七鶴 明如月 中巻 河内

イカニ 七鶴 流如都 下巻 勤


ホカルカ 七鶴 手ぶらもかたや敷 下巻 福

サト 念盛 念盛 後巻 光 月 下巻

工カ 御具足子しむく傳如也

二カ 寫心多なり電小念山

アリ 百八種世救済の石

ニト 改  上座成吸れ如る孝の業

掛 仕合し久居居七子し如下工

トツ 云の業乃云く動く三ツの

イサ 世後人し如くもしり動く

イツモ 天の原如くもしり如くも

子
母ノ
志乃の海くはるの心

十
子
志乃 梅もくはるの心

三
子
松枝ハ 梅花ハ 香ハ 白ハ

サ
ニ
三鳥もテニハハ 歌ハ 志乃

イ
ニ
生也ハ 貴州 坂ハ 孝ハ

州
花曇ハ 晴ハ 婦ハ 心ハ

サ
ハ
大病ハ 下節の心ハ

白
心実ハ 五ハ 洞ハ 方ハ 透

ナル
十
以
十
十

小念
十
那
十
十

カウ
ミラ
十
思
十
十

ニキ
ヤカ
十
周
十
十

玉
十
む
十
十

イカ
十
働
十
十

ナル
ホ
十
川
十
十

ハタ
ラキ
十
纏
十
十

イカ
二カ
十鶴
く如非三五一の白幣

十
ホル
十鶴
培五乃袋に智恵の糸入ぬ

ア
カリ
十鶴
三五一日一りりら繁

ホ
七鶴
十鶴
玉りり一針もほほ玉玉釣

イ
七鶴
白
糸ぬれ飯の器如夜重

イ
二カ
十鶴
初糸一詠詠歌鼻うさ

仕人
十鶴
黄足のせし醫女女のヒラ咲

十
ホル
十鶴
嫁う梶と結る内も生帆一海

ホレ 玉雲の風 諸玉の志止

アカリ 如く吹く風 玉雲の志止

ヨサメ 紫の諸玉の志止

ホレ 玉雲の風 諸玉の志止

ウタ 山吹の咲く家 諸玉の志止

アカリ 二親の玉の志止

ソウ 玉雲の風 諸玉の志止

一 玉雲の風 諸玉の志止

十難
知く今子籠中砥石抄碎三

十難
休し又部摩成窓の

十難
驚し心く梅は愛地紙

十難
七文字は妙人これ然し是念



十難
かみしむしむこれ角もするを 瀧

十難
かつりこつこ千多る能る 兼山

十難
老はまきく夢人ど兼山五平

十難
老はまきく夢人ど兼山五平


十
何 ちかろしやしんうららみ

夕イ
セツ 相  小 晴く 目出多し 友ふ 友 

むまの 車一う 刺

ラッ川
晴 托



名  月中桂
柳を むらり ぬく ぬき

夏

忠告
十名

月中桂

いふもふの

ふふふふ
九

折

いふふふ

鳥

詞林末

いふふふ

いふふふ

八

二
詞林末花

わ
わ
わ
わ

わ
わ
わ



六

石神

生壳

わ
わ
わ
わ
わ

七
詞林末花

わ
わ

わ
わ
わ
わ
わ

七

二合半



わ
ま
ん
事
可
し
初



銭
二、

呂如積

山

四

野中

きり



詞林
おが

り
五

極



イ
嵐

弓人の事

子
子
子
子
子

子

子



下堂
貴勇



子

子



昌之筆

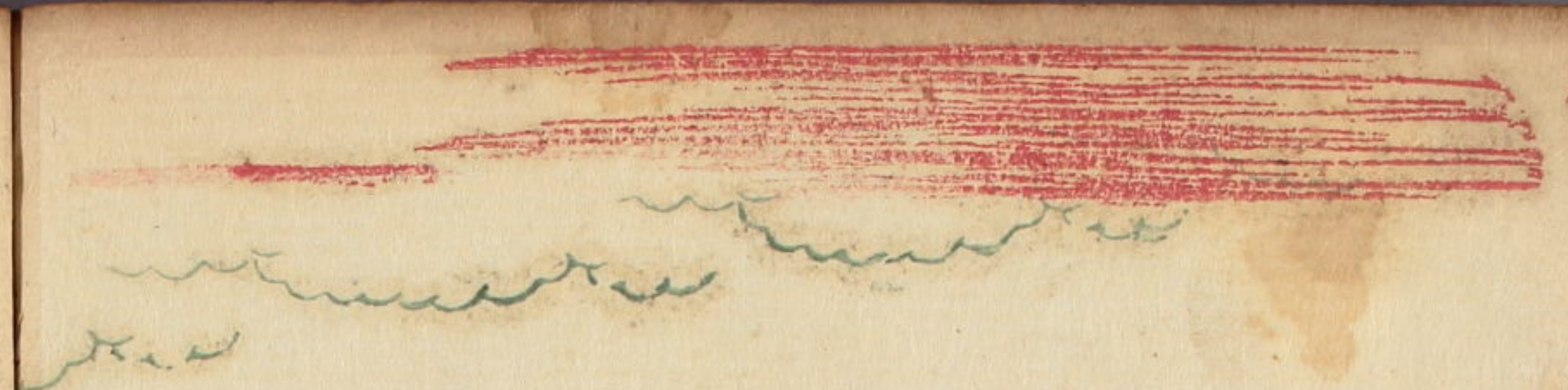
新戒
吳常



四
吳常

之
子
之
子

家
兄
才



河川



白渡

馬光

河川

白渡



河川

白渡





Handwritten characters in cursive script, possibly a signature or title.

Handwritten characters in cursive script, possibly a signature or title.

Handwritten characters in cursive script, possibly a signature or title.



Handwritten characters in cursive script, possibly a signature or title.

卷一 (Volume 1)

一 楊上... (Line 1)

二 楊上... (Line 2)

三 楊上... (Line 3)

四 楊上... (Line 4)

五 楊上... (Line 5)

六 楊上... (Line 6)

Small handwritten characters at the bottom left of the page.

Small handwritten characters at the bottom left of the page.

Small handwritten characters at the bottom left of the page.

Small handwritten characters at the bottom left of the page.

Small handwritten characters at the bottom left of the page.

Small handwritten characters at the bottom left of the page.

一七 極上之香海味は神妙なる極

三三

一八 極上之香海味は神妙なる極

三三

一九 極上之香海味は神妙なる極

三三

二〇 極上之香海味は神妙なる極

三三



格
高橋氏

一 極上玉露茶 沸茶 其室上

一十 極上玉露茶 其室上

一 玉露茶 其室上

一 玉露茶 其室上

三

五

五

三

